

## 事業成果報告書（写真・成果物）

### 1 地域社会と大学博物館との連携事業

#### （1）紀州地域 文化財の匠 育成プロジェクト

#### ①地域住民・大学生を対象とした文化財調査・保全のための講習会（地域A）

#### ○わかやま文化財の「匠」講座①

「たのしい古文書—学んで、さわって、調べてみよう—」

実施期日：2019年5月18日 [土] 14:00～16:00

実施場所：和歌山大学 西5号館 3階 マルチルーム1

講師：貫井裕恵氏（神奈川県立金沢文庫）

参加人数：35名

#### 【写真1】わかやま文化財の「匠」講座①



【チラシ・ポスター1】わかやま文化財の「匠」講座①

和歌山の近代産業遺産をめぐるバスエクスカーション

2019年 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所

## わかやま文化財の「匠」-たくみ-講座

5月18日 [土] 14:00 ~ 16:00 (13:30 開場)

### たのしい<sup>こもんじよ</sup>古文書

— 学んで、さわって、調べてみよう —

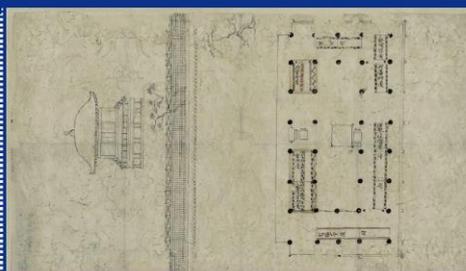
**要事前申し込み (先着 40名)**

【講師】 貫井 裕恵氏 (神奈川県立金沢文庫 学芸員)

【会場】 和歌山大学 西5号館 [図書館] 3階 マルチルーム1

【対象】 小学校 高学年以上から、どなたでも

「東寺<sup>ひやくごう</sup>百合文書」の専門家から、古文書のおもしろさ・  
調べ方を学んで、古文書体験してみませんか？



「御室宮守覚法親王等高野山奥院参籠座差図」(「東寺文書」観智院2)



西国巡礼道中笑草 (紀州経済史文化史研究所蔵)

一般参加  
大・歓・迎  
参加費 無料



Scan this Code!



5月19日 [日] 8:30 ~ 17:00 (予定 小雨決行)

### 湯浅町の歴史・生活・産業遺産をめぐる

— 紀州研 バス&トレッキングツアー —

**要事前申し込み (先着 40名)**

【講師】 貫井 裕恵氏 (神奈川県立金沢文庫 学芸員)

定藤 博子氏 (鹿児島国際大学)、他 紀州研のスタッフ・教員たち

【集合・解散】 JR 和歌山駅 東口 セブンイレブン付近 (8:20 集合 17:00 解散予定)

【対象】 小学校 高学年以上から、どなたでも (小・中学生は保護者同伴にて)

※計3時間ほど歩きます 山道あり 歩きやすい靴・服装でご参加下さい

明恵上人<sup>みょうえんしやうにん</sup>ゆかりの施無畏寺<sup>せむいじ</sup>で文化財 (施無畏寺文書) をじっくり見学

「明恵ハ所遺跡」をめぐるトレッキングツアー (汗)

特産の「しらす井&湯浅醤油」で美味しい食体験!

情緒ゆたかな重要伝統的建造物群保存地区の散策と最先端の解説

#### 【お申し込み方法】

お名前・緊急連絡先・ご参加人数・ご希望日を明記の上、

[kishuken@ml.wakayama-u.ac.jp](mailto:kishuken@ml.wakayama-u.ac.jp)

までお申し込みください

各日の定員に達し次第、受付を終了いたします

※いずれか1日のみのご参加でもOKです

#### 【お問い合わせ】

和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 事務室

640-8510 和歌山市栄谷 930

栄谷キャンパス 西5号館 [図書館棟] 1階

tel: 073-457-7891 fax: 073-457-7890

<https://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/>

○わかやま文化財の「匠」講座②

「粉河祭のウラのウラー文化財としておまつりを見学してみよう」

実施期日：2019年7月27日 [土] 18:30~20:30

集合場所：JR粉河駅前

講師：吉村旭輝氏（和歌山大学）

大橋直義氏（和歌山大学）

参加人数：8名

【写真2】わかやま文化財の「匠」講座②



【チラシ・ポスター2】わかやま文化財の「匠」講座②チラシ

2019年 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所  
わかやま文化財の「匠」-たくみ-講座

7月27日 [土] 18:30～20:30 (予定 小雨決行)

## 粉河祭のウラのウラ

— 文化財としておまつりを見学してみよう —

【講師】吉村 旭輝・大橋 直義

【集合・解散】JR 粉河駅前 (18:25 集合 20:30 解散予定)

【対象】小学校 高学年以上から、どなたでも (小・中学生は保護者同伴にて)

**要 事前申し込み (催行人数 20 名程度)**

粉河祭のウラのウラ、「お祭り研究の専門家」と一緒に、  
じっくり見学してみませんか。



一般参加  
大・歓・迎  
**参加費 無料**



【お申し込み方法】

お名前・緊急連絡先・ご参加人数を明記の上、

[kishuken@ml.wakayama-u.ac.jp](mailto:kishuken@ml.wakayama-u.ac.jp)

までお申し込みください

定員に達し次第、受付を終了いたします

【お問い合わせ】

和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 事務室

640-8510 和歌山市栄谷 930

栄谷キャンパス 西5号館 [図書館棟] 1階

tel: 073-457-7891 fax: 073-457-7890

<https://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/>

○わかやま文化財の「匠」講座③

「たのしい考古学—学んで、さわって、調べてみよう—」

実施期日：2019年10月19日 [土] 13:00～15:00

実施場所：和歌山大学 西5号館 3階 マルチルーム1

講師：金澤舞氏（和歌山県立紀伊風土記の丘）

参加人数：12名

【写真3・4】わかやま文化財の「匠」講座③



【チラシ・ポスター3】わかやま文化財の「匠」講座③

曝書・虫干し会（曝涼会—紀州研所蔵品虫干し見学会—）

2019年 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所

## わかやま文化財の「匠」—たくみ—講座

10月18日 [金] ~ 19日 [土]  
ばくりようかい  
**曝涼会**  
—— 紀州研 所蔵品 虫干し見学会 ——

**申し込み不要**  
随時ご見学いただけます

[日時] 10月18日 [金] 13:00 ~ 16:00 / 10月19日 [土] 10:00 ~ 12:00  
[会場] 西5号館 [図書館] 3階 紀州研 展示室およびセミナールーム3

所蔵品に風をとおして虫干しをし、あわせて台帳と照合する、  
曝涼（曝書）とよばれる習慣が古来より続いています。  
数多くの貴重史料を所蔵する紀州経済史文化史研究所では、  
はじめて、曝涼会を広く公開することにいたしました。  
紀州地域の文化財と、目の前で接することができる機会です。  
見学のみならず、体験していただけますと幸いです。

紀州研  
WAKAYAMA UNIVERSITY

一般参加  
大・歓・迎  
**参加費 無料**

Scan this Code!



10月19日 [土] 13:00 ~ 15:00 (12:30 受付開始)

### たのしい考古学 — 学んで、さわって、調べてみよう —

**要事前申し込み (先着 40名)**

[講師] 金澤舞氏 (和歌山県立紀伊風土記の丘学芸員)  
[会場] 和歌山大学 西5号館 [図書館] 3階 マルチルーム1  
[対象] 小学生以上から、どなたでも (小学生ご参加の場合には保護者ご同伴にてお願いいたします)

【お申し込み方法】  
お名前・緊急連絡先・ご参加人数を明記の上、  
[kishuken@ml.wakayama-u.ac.jp](mailto:kishuken@ml.wakayama-u.ac.jp)  
までお申し込みください  
定員に達し次第、受付を終了いたします

【お問い合わせ】  
和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 事務室  
640-8510 和歌山市栄谷 930  
栄谷キャンパス 西5号館 [図書館棟] 1階  
tel: 073-457-7891 fax: 073-457-7890  
<https://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/>

○わかやま文化財の「匠」講座④

実施予定期日：2020年3月20日 [金・祝] 13:00 ~ 15:00

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

②市民参加型文化財調査（和歌祭見学会・曝書・虫干し等）（地域B）

○和歌祭見学会

実施期日：2019年5月12日〔日〕10:00～16:00

実施場所：紀州東照宮紀州研特設ブース

参加人数：95名

【写真5・6・7】和歌祭見学会



【チラシ・ポスター4】わかやま文化財の「匠」講座③



和歌山大学地域活性化総合センター

紀州経済史文化史研究所

企画展

# 和歌の浦と和歌祭



2019年4月9日(火)-5月31日(金)

◎閉所日

土・日・祝  
(図書館閉館日は閉館)

◎場所

和歌山大学  
紀州経済史文化史研究所展示室

◎主催

和歌山大学  
紀州経済史文化史研究所

◎後援

紀州東照宮/  
和歌祭実行委員会

《関連イベント》

◎オープニングイベント「和歌祭御船歌・唐人練り歩き」

日時：2019年4月10日(水)12:30~13:00  
会場：和歌山大学シンボルゾーン~附属図書館前  
出演：和歌祭 唐船御船歌連中ほか

◎和歌祭見学会

日時：2019年5月12日(日)10:30~  
会場：紀州東照宮境内紀州研ブース



○曝書・虫干し会（曝涼会—紀州研所蔵品虫干し見学会—）

実施期日：2019年10月18日〔金〕13:00～16:00

10月19日〔土〕10:00～12:00

実施場所：

① 図書館3階 紀州経済史文化史研究所 展示室（古文書・古典籍）

② 図書館 セミナールーム3（考古資料など）

参加者：運営担当者を含め約25名

【写真8・9】曝書・虫干し会（曝涼会—紀州研所蔵品虫干し見学会—）



(2) 展覧会と連動させたエクスカーション開催

①和歌山の近代産業遺産をめぐるバスエクスカーション開催 (地域C)

○湯浅町の歴史・生活・産業遺産をめぐる一紀州研バス&トレッキングツアー

実施期日：2019年5月19日 [日] 8:30~17:00

集合場所：JR和歌山駅東口セブンイレブン付近

講師：貫井裕恵氏 (神奈川県立金沢文庫)

定藤博子氏 (鹿児島国際大学)

他紀州研スタッフ・和歌山大学教員

参加者：25名

【写真10・11・12・13】

湯浅町の歴史・生活・産業遺産をめぐる一紀州研バス&トレッキングツアー





②犬鳴山七宝瀧寺の修験の道を歩くトレッキングツアー開催（地域D）

○エクスカージョン「日根荘の史跡をめぐる」

実施期日：2019年11月23日 [土・祝] 9時10分集合

集合・解散場所：JR 日根野駅 東口 日根野駅前バス停付近

参加費：実費（バス運賃1,000円弱・昼食費）

探訪先：七宝瀧寺・香積寺跡・火走神社・毘沙門堂・長福寺跡

講師：細田慈人氏（歴史館いずみさの学芸員）

参加者：21名

【写真14・15・16】エクスカージョン「日根荘の史跡をめぐる」



【チラシ・ポスター5】 エクスカーション「日根荘の史跡をめぐる」  
公開シンポジウム「七宝瀧寺と日根荘—九条政基『旅引付』をめぐる—」

和歌山大学 地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所 2019年度 特別展

# 七宝瀧寺と志一上人

## —— 葛城修験二十八宿の世界 ——

2019年10月31日(木)~12月13日(金)

和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 展示室  
(和歌山大学 西5号館[図書館] 3階)

**開室時間** 10:30~16:00 **入場無料**  
※土曜開室 13:00~16:00

**休室日** 土・日・祝日・図書館休館日  
※11月9日[土]、30日[土]は特別開室します



【ミュージアムトーク】  
11月9日[土]、21日[木]、30日[土]、12月13日[金]に開催します。  
ご希望の方は13時30分に展示室にお集まりください。(60分程度)

【関連イベント】  
**体験型見学会 エクスカーション「日根荘の史跡をめぐる」**(定員20名 要事前申込)  
日 時:11月23日[土祝] 9時10分JR日根野駅東口 日根野駅前バス停付近集合 16時頃解散予定  
※不測の事態に備えて傷害保険にご加入いただきます。(無料)

**公開シンポジウム 「七宝瀧寺と日根荘—九条政基『旅引付』をめぐる—」**(定員65名 要事前申込)  
日 時:11月24日[日] 13時~16時30分(予定 受付開始:12時30分)  
会 場:エブノ泉の森ホール(泉佐野市立文化会館)会議室[大] 南海 泉佐野駅よりバス5分  
報告者:熱田順氏(中央大学)・大橋直義氏(和歌山大学)・廣田浩治氏(中世史家)・細田慈人氏(歴史館いずみさの)  
※参加申込先等、詳細はチラシ裏面、HP(<https://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/>)をご確認ください。



和歌山大学前山 和歌山大学 紀の川 南海和歌山駅 泉佐野市立文化会館 泉佐野市立博物館



(3) 展覧会と連動させた公開研究会開催

① 葛城修験二十八宿に関連する公開シンポジウム開催 (地域E)

○ 公開シンポジウム「七宝瀧寺と日根荘―九条政基『旅引付』をめぐって―」

実施期日：2019年11月24日 [日] 13時～16時30分 (受付開始：12時30分)

実施場所：エブノ泉の森ホール (泉佐野市立文化会館) 会議室 [大]

参加費：無料

講師：大橋直義氏 (和歌山大学) ・細田慈人氏 (歴史館いずみさの学芸員)

細田慈人氏 (歴史館いずみさの) ・熱田順 (中央大学文学部)

参加者：70名

【写真17・18・19】

公開シンポジウム「七宝瀧寺と日根荘―九条政基『旅引付』をめぐって―」



## 2 初等・中等教育と大学博物館との連携事業

### (1) 小・中学校における教育活動との連携

#### ② 「百人一首セレクト20」「和歌山万葉かるた」大会イベントの開催（学校B）

実施期日：2020年2月8日〔土〕13時～16時（受付開始：12時30分）

実施場所：和歌山大学東2号館 L201

参加費：無料

参加者：児童40名（保護者・引率教員20名超）

【写真20】第5回学長杯和歌山かるた大会



# 第五回 学長杯

文化庁 平成31年度地域と共働した  
博物館創造活動支援事業

# かるた大会

上位者は  
和カールタ部に  
挑戦だ

**日時** 令和2年2月8日(土)  
13時~16時(12時30分 受付開始)

**会場** 和歌山大学 東2号館 L201  
(大学HPキャンパスマップでE2の建物です)

**参加対象者** 和歌山市内在住の小中学生

**申し込みについて**  
お申し込み方法は、チラシ裏面をご覧ください。紀州経済史文化史研究所HPをご覧ください。

主催/和歌山大学地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所  
TEL:073-457-7891 FAX:073-457-7890  
<https://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/>  
研究プロジェクト「学長杯かるた大会」実行委員会

③「くずし字を読んでみよう会」出前授業（学校C）

○有田川町立吉備中学校

実施期日：2019年12月16日 [土]

実施学級：1年A～E組（5クラス）

授業者：和歌山大学 教育学部 大橋ゼミ生および菊川ゼミ生

○和歌山大学教育学部附属小学校

実施期日：2020年2月3日 [月]

実施学級：5・6年F組（複式学級）・6年C組（2クラス）

授業者：和歌山大学 教育学部 大橋ゼミ生

【写真21・22】「くずし字を読んでみよう会」出前授業



④「和歌祭 芸能体験ワークショップ」の開催（学校D）

実施期日：①2020年2月6日〔木〕8：45～12：10

②2020年2月21日〔金〕13：00～15：00

③2020年2月27日〔木〕13：30～15：00（中止）

実施会場：①和歌山市立雑賀小学校

②和歌山市立和歌浦小学校

③和歌山市立今福小学校（中止）

内容：各種芸能披露～各種芸能体験（小学校①6年生、②4年生、③4～6年生）

出演芸能：摺鉦・太鼓/ 薙刀振/ 母衣/ 唐船・御船歌/ 雑賀踊

主催：和歌山大学・紀州経済史文化史研究所

共催：紀州東照宮/ 和歌祭保存会/ 和歌祭実行委員会

参加者：①約100名、②・③約50名

※③和歌山市立今福小学校でのワークショップはコロナウィルス感染予防対策として中止

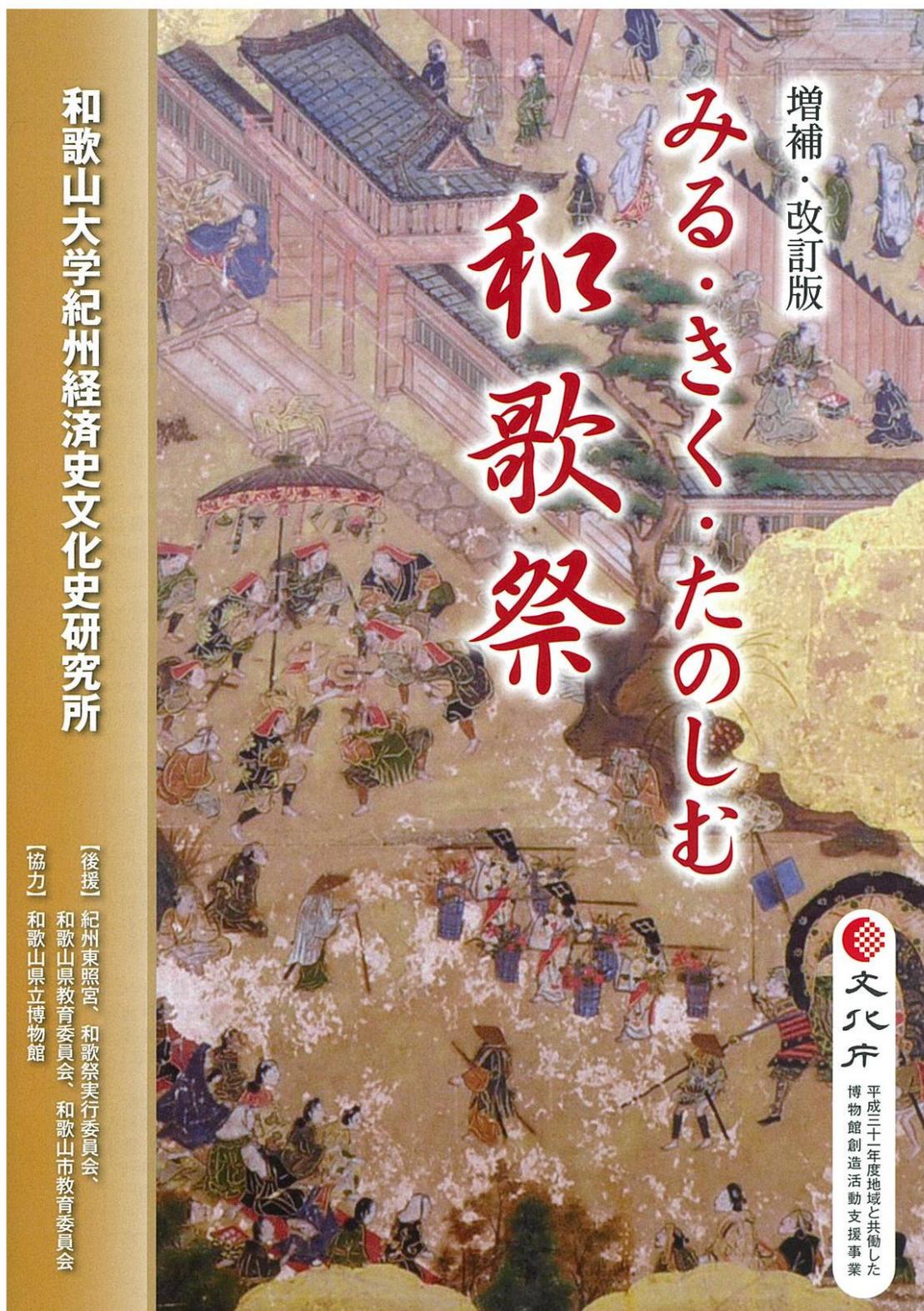
【写真21・22】和歌祭 芸能体験ワークショップ（和歌山市立和歌浦小学校）



【写真23・24】和歌祭 芸能体験ワークショップ（和歌山市立和歌浦小学校）



【配付資料】 『増補・改訂版 みる・きく・たのしむ和歌祭』



増補・改訂版

みる・きく・たのしむ

# 和歌祭

和歌山大学紀州経済史文化史研究所

〔後援〕 紀州東照宮、和歌祭実行委員会、  
和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会  
〔協力〕 和歌山県立博物館

文化庁  
平成三十一年度地域と共働した  
博物館創造活動支援事業

(2) 高等学校における教育活動との連携

①「秋の紀州研 公開講義」の開催 (学校E)

実施期日：2019年11月7日 [木] 9時30分～15時

実施場所：和歌山大学栄谷キャンパス

参加費：無料

講師：遠藤史氏「ユカギールの民話：シベリア少数民族の紡ぐ物語」

三光寺由実子氏「会計史へのいざない

—中世日本の英知に光を当てて」

此松昌彦氏「紀伊半島西部の地形・地質と私たちの生活」

吉村旭輝氏「祭りと祭礼の歴史と現代」

吉田道代氏「文化観光における「本物」の価値の喪失

—世界遺産よりテーマパークが旅行先に選ばれる理由」

荒木良一氏「植物の鉄吸収戦略」

参加者：和歌山信愛女子高等学校生徒 (1・2年生 計72名) 教職員

和歌山大学 学生 若干名

【写真25・26】秋の紀州研 公開講義



### 3 文化財オープン・アーカイブス構築を目指したSNS 活用事業

#### (1) オープンアーカイブス構築のためのSNS 番組発信事業

##### ○イベント情報のTwitterへの投稿

- ・湯浅町の歴史・生活・産業遺産をめぐる一紀州研 バス&トレッキングツアーの告知 (5 月5 日)
- ・「たのしい古文書一学んで、さわって、調べてみよう」の告知 (5 月5 日)
- ・和歌祭の動画投稿 (5 月12 日)
- ・企画展「紀州地域の文化財―館蔵品・寄託品展―」の告知 (6 月10 日)
- ・オープンキャンパスでのかるた大会の告知 (7 月14 日)
- ・粉河祭のウラのウラの告知 (7 月26 日)
- ・曝涼会の告知 (10 月2 日)
- ・湯浅町の歴史・生活・産業遺産をめぐる一紀州研 バス&トレッキングツアーの動画 (11 月4 日)
- ・紀州研ボランティアによるくずし字チャレンジの紹介 (12 月6 日)
- ・第5 回学長杯かるた大会の紹介・動画投稿 (2 月8 日)

##### ○ツイート

ツイート回数：

8月：22回、9月：14回、10月：15回、11月：25回、12月：1回、1月：5回  
(2020年2月21日現在)。

##### ○所員の研究紹介

- ・遠藤史氏：言語学の世界 (12 月3 日投稿)
- ・菊川恵三氏：古代文学 (12 月15 日)
- ・彦次佳氏：いかにスポーツとともに人生を楽しんでいくか? (1 月5 日)

○Twitter閲覧回数：遠藤教授184回、菊川教授283回、彦次准教授536回  
(2020年2月21日現在)

○Facebook閲覧回数：遠藤教授113回、菊川教授122回、彦次准教授82回  
(2020年2月21日現在)

## 【写真27～34】Twitterへの投稿



## (2) オープンアーカイブスの成果としてのニューズレター発行事業

### ○『きのみなと』2019年夏号(2019年6月刊)

- ・東悦子「資料紹介『ブラジル移植民地寫真帖』(個人蔵)」
- ・菊川恵三「万葉の夢歌とドリカム—私の研究のブレイクスルー—」
- ・小野健吉「日本庭園の歴史」
- ・[紀伊半島のロギオスたち] 平田隆行・山神達也・吉田道代
- ・[各種報告] 西倉実季・吉村旭輝・大橋直義・三光寺由実子・長廣利崇
- ・[インフォメーション] 大橋直義



#### 資料紹介 『ブラジル移植民地寫真帖』(個人蔵)

1908年(明治41)、ブラジルへの移住が始まりました。ブラジルへの渡航を考える人々に対して、あるいは渡航へと誘うために、さまざまな「渡航案内」が出版されました。このような出版物の一つとして、『ブラジル移植民地寫真帖』を紹介します。

本写真帖は、1924年(大正13)9月20日、海外興業株式会社により発行された非売品で、縦横19cm×25.7cmです。内容は「目次」に始まり、「南米ブラジル国サンパウロ州移民」の頁で、同州が農業者の天国であることと珈琲園の仕事内容などが説明されます。次に「海外興業株式会社案内」で同社の事業が示されます。続く「神戸より「サントス」に至り航路図」の解説には、神戸から60余日でサントス港に到着するとあります。次に「南米米利加の図」がブラジルの位置を示し、「サンパウロ州地図」で邦人の集団地が示され、「イグアベ移民地一般図」によって土地が区画された植民地の状況を提示しています。その後は39頁に渡りモノクロ写真61点が掲載され、「奥付」で締めくくられます。

最初の写真は、1924年6月、日本郵船株式会社の「河内丸」が神戸港を出帆する様子で、デッキは移民民地であふれています。サントス港に到着する船の写真に続き、「…大都会デアリマシテ鏡ノ様ナ立派ナ道路ニ堂々タル高樓ガ聳エテ…」の解説とともに、サンパウロ市やリオデジャネイロ市が紹介されます。サンパウロ市移民収容所の建物も立派で、内部には食堂や2段ベッドが整然と並ぶ寝室があり、そこで移民民地は数日を過ごし、働く耕地が決定し契約を結びます。写真帖の後半は、移民民地が暮らすことになる珈琲耕地の全景や珈琲木の成長過程や収穫の写真、さらに森林開墾の様子、養豚や牧畜、綿畑などの広大で豊かなイメージを喚起させる写真が掲載されています。

写真帖は、まだ見ぬ国の情報を視覚的に提示し、移民民地がこれから経験する移動と労働の全容を描き出しています。それにより人々はその地の情報を得、将来への期待をも抱いたのでしょうか。一方、ブラジルで移民民地が経験したさまざまな困難を知ると、これらの写真は、レンズが捉えたポジティブな一面であったという点にも気づかれます。(東悦子)

○『きのみなと』2019 年秋号 (2019 年9 月刊)

・大橋直義「資料紹介『灌頂雑集』存二巻二帖 紀州経済史文化史研究所管理一ノ橋文庫蔵」

・瀧野邦雄「紀州藩「徳川頼宣」の名前について」

・長廣利崇「炭鉱の歴史を考える」

・[紀伊半島のロギオスたち] 遠藤史・西倉実季・荒木良一

・[各種報告] 大成一維・岩野清美・阿山健人

・[資料紹介] 藤本清二郎・上村雅洋

・[インフォメーション] 藤田和史・吉村旭輝



**資料紹介 灌頂雑集 存二巻二帖 紀州経済史文化史研究所管理 一ノ橋文庫蔵**

天正四年[1576]肥後願成寺十三世 釈勢辰写、綴葉装。上冊25.2×15.7 糎、下冊25.0×15.8 糎。上冊の末尾には、永正八年[1511]に、高野山無量光院の学匠であった印融[1435-1519]が高野山仙順房所蔵本に拠って書写した旨を示す本奥書が見える。元来の『灌頂雑集』六巻は、高野山西院智明院澄円が正応五年[1292]に著した三寶院流伝法灌頂の本式および治承承記の口決で、灌頂の諸事について秘儀を説いたものである。高野山金剛三昧院・高野山龍光院に室町中期頃の写本が伝来する他、普通寺に享保十四年[1729]の写本が伝わる(日本古典籍総合目録データベースに画像有)。

本書は、同書全六巻のうち巻一および巻二を書写したもの。勢辰が六巻全てを書写したのかどうかは不明だが、現存本の外題(原装表紙の原貼題簽)および内題に見える「第一」「第二」に「第上」「下」となるよう重書訂正が施される。現在、願成寺に伝来する、本書をもとに猷禪が宝暦八年[1758]に書写した本では、外題を「第一上」「第二下」としていることから、江戸中期以前の段階で既に現在の重書訂正が行なわれていたらしい。

本書にとって最も重要なことは、天正十三年[1585]に羽柴秀吉の兵火によって根来寺が大きな被害を受ける直前、中世末期の根来寺に修学した勢辰によって書写された一本であるという点である。天正二年に初めて根来寺を訪れて以後の勢辰の動向については、中川委紀子「願成寺勢辰にみる中世末期根来寺教学の一断面」(『根来寺史』史料編一、1987)に詳しいが、本書の存在によって、勢辰書写聖教の全容解明にまた一歩近づくことができるだろう。

(大橋直義/中世日本文学・文献学)



○『きのみなと』2019年冬号(2019年12月刊)

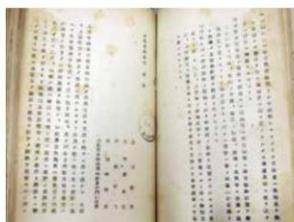
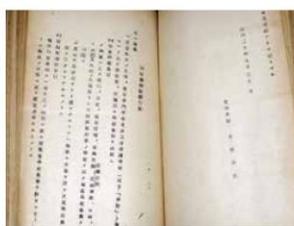
- ・長廣利崇「資料紹介 和歌山経済・工業専門学校庶務課「昭和十八年六月以降例規」」
- ・大橋直義「巡礼とは何か」
- ・山神達也「「発見」する楽しみ」
- ・[紀伊半島のロギオスたち] 菊川恵三・吉村旭輝・小関彩子
- ・[各種報告] 芝崎ももか・大橋直義・吉村旭輝・長廣利崇
- ・[インフォメーション] 海津一朗

2019 | Winter | 通巻5号

和歌山大学  
紀州研 News Letter

文化庁  
平成31年度地域と共創した  
博物館創造活動支援事業

# きのみなと



## 資料紹介 和歌山経済・工業専門学校庶務課「昭和十八年六月以降 例規」

本研究が保管・管理する「和歌山高等商業学校資料」は、学校の運営・経営のみならず近代日本の歩みを知る上で重要な資料となる。

ここに掲載された『例規』は、1943年以降に文部省などから送付されてきた文書が綴られたものである。表紙に「永久保存」と記されているように、学校の運営・経営にとって重要な決定事項が記された文書が含まれている。

1938年の国会総動員法をはじめとして日本の戦時統制は時の経過とともに深化した。とりわけ、学生・生徒の「徴兵猶予」が1943年に撤廃されて、「学徒出陣」が決まった。高等商業学校は、1944年に経済専門学校・工業専門学校・工業経営専門学校に転換し、戦時経済に有用な理工系の人材を養成することが求められた。1922年に設立された和歌山高等商業学校は、1944年に和歌山工業専門学校に転換(高等商業学校の在学生在が卒業するまでは和歌山経済専門学校が併設)した。

写真の「学校集団整備要綱」には作成年月日が記載されていない。『例規』が受信した文章の順に綴られていることを考えれば、この文書は1945年7月30日と8月25日の間に受信したことになる。1945年8月25日の文書は、文部省訓令第5号でポツダム宣言の受託を学校に通達したものになるため、「学校集団整備要綱」は文部省からの戦時下における最後の通達文書であったと思われる。

この要綱によれば、官立私立の大学、高等専門学校、教員養成諸学校は、地区別と校種別に学校集団を組織するとされている。地区とは北海道・東北・関東信越・東海北陸・近畿北部・近畿南部・中国・四国・九州であり、校種とは大学集団・高等学校集団・理科系専門学校集団・文科系専門学校集団・女子専門学校集団・教員養成諸学校集団であった。

この決定が実施されれば高等教育の大きな組織変更がなされたといえるが、敗戦とともにこの要綱は反故になった。ただし、この文書の作成過程などに関しては研究史においても明らかにされていない。今後の探求が待たれる。

(長廣利崇／近現代日本経済史・経営史)



○『きのみなと』2020年春号(2020年3月刊)

- ・吉村旭輝「資料紹介 紀伊国和歌浦図 紀州経済史文化史研究所蔵」
- ・小野健吉「庭園観光とイタリアの庭園」
- ・遠藤史「2つのフィールドワーク」
- ・大橋直義「延慶本『平家物語』と紀州地域」
- ・[各種報告] 海津一朗・菊川恵三・大橋直義
- ・[インフォメーション] 吉村旭輝
- ・[事業報告] 吉村旭輝



資料紹介 紀伊国和歌浦図

明治26年[1893]5月 版本色刷 本紙11.7×17.0釐 紀州経済史文化史研究所蔵

和歌浦のあしべ屋旅館が出版した和歌の浦のガイドブックともいえる和綴の冊子にあたります。あしべ屋は妹背山にかけられた三断橋前に本館を構えていた旅館で、南方熊楠が明治34年[1901]に孫文とこの旅館で再会し、旧交を深め、また夏目漱石が明治44年[1911]に妹背山にある当旅館の別荘を予約するなど、多くの文化人が滞在する場となっていました。

本書では各項目でタイトルがつけられ、和歌の浦の名所が詳細に描かれています。とくに「和歌浦全図」の項目では「芦辺や汐場」、また巻頭の項目では「和歌浦海水浴」と記され、当時の和歌の浦が明治期に海水浴で賑わっていたことがわかります。また、和歌祭のようすも「旧四月十七日東照宮御祭礼」として描かれており、明治18年[1885]に旧藩士が和歌祭を支援するために結成した徳盛社の幟が先頭に立った和歌祭の渡御行列のようすも描かれています。(吉村旭輝)